

企業の内部統制とコーポレート・ガバナンス

水口雅夫(九州産業大学)

1. はじめに (研究の理論枠組み)

現在の日本の企業をめぐる議論の主要なテーマに内部統制がある。この論題の広がり、直接には、2002年のアメリカの企業改革法 (Sarbanes-Oxley Act of 2002) の成立がきっかけである。組織の内部統制と外部統制の関係が浮かび上がってくる。コーポレート・ガバナンスのシステムも新たな段階にはいったのかもしれない。本稿は、ガバナンスの研究対象を、政治的統治体と経済的統治体 (水口[2001]) と理解したうえで、組織理論にある外部統制 (external control) と内部統制 (internal control) という概念を参照し、企業の内部統制とコーポレート・ガバナンスはどのように理解できるか、を検討する。

2. 企業進化としての株式会社

コーポレート・ガバナンスの研究は、経済的統治体を対象にしてきた。それは一般には、株式会社であるとされる。そのときの株式会社は、狭義にはいわゆる上場企業であるが、閉鎖会社や、さらに広く、産業における企業と法人の分布をも、参照する必要がある (水口[2006a])。企業を経済学に基づいて研究するとき、組織生態学 (水口[2007b]) や知識経済と文化的環境 (水口[2006b]; 水口[2007a]) の観点からの考察が必要である。

コーポレート・ガバナンスは、一般には、資本市場という、企業にとっては外部から、企業や経営者 (いわゆる CEO に代表される経営陣) を規律づける仕組みと理解されている (狭義のガバナンス論)。それに対して、企業の多様な利害関係者の関係を論じるのが、コーポレート・ガバナンス論である、とする理解もある (広義のガバナンス論)。

3. 企業改革法と内部統制

企業改革法は、従来の法体制に比較して、企業の内部統制により一層の力点をおいている。この考え方は、法理論としては、企業の経営陣に対して、企業組織そのものをより強化された形で統制するように、強制するものと理解できよう。他方では、組織理論の点からは、先にも述べたように、内部統制と外部統制の理論的關係が問われるかもしれない。

4. コーポレート・ガバナンスをめぐる二つの論点—会社の内部構造と資本市場

この問題は、改めて考えると、コーポレート・ガバナンスというシステムの中に、存在していたと理解することができる。そこで、改めに、会社の内部構造と資本市場の関係を考える必要がでてくる。このような課題の考察には、資本市場のメカニズムと組織の論理の關係が必要であり、またここで言う組織の内部構造には、いわゆる文化や環境もはいると思われる (水口[2007a])。

5. 粉飾事件と文書を介した組織管理

上で述べたことから、資本市場の規律と組織の自律性の課題に接続する。企業進化による課題解決のためには、資本市場による規律づけを維持し強化する必要があるという主張にも肯ける一方、企業内部の公正さや自律性がいかに確保されるかも重要である。

企業システムにとって、公正さや自律性は、資本市場の論理との関係を考える上で、重要である。資本市場の規律づけという用語法には、企業組織への外部からの強制というニュアンスが含まれると理解されるかもしれない。いずれにせよ、企業が、現在の日本でも様々に取り上げられる粉飾事件などの迷路に踏み込まないで健全な発展を確保するための有効な方法があるとすれば、その積極的展開として、市場の論理とともに、組織の公正な自律性に注目することができよう。

そこで、組織の階層構造を通じた、特に文書を介した情報の伝達と蓄積に注目することができる。そこで、傾聴に値するのが、ある企業不祥事の処理作業に携わったといわれる公認会計士の、次のような言明である。

内部統制が働いて初めて帳簿に正しく数字が反映される。

粉飾決算の発生構造は複雑である。このような問題の発生は、組織の各所でモラルハザード問題をひきおこし、組織の生産性を低下させ、企業業績悪化の悪循環に陥るきっかけになるとも考えられる。

6. むすび

内部統制は、市場規律と同様に、重要なガバナンスの経路になりうるかもしれない。

Reference:

- Brown, Gary M. [2005] 'Changing Models in Corporate Governance—Implications of the US Sarbanes-Oxley Act.'
- 水口[2001]「システムとしてのコーポレート・ガバナンス」後藤泰二編著『現代日本の株式会社』ミネルヴァ書房。
- 水口[2006a]「コーポレート・ガバナンス論と企業・経済との関係」『進化経済学論集 第10集』2006年3月。
- 水口[2006b]「知識経済と進化経済の接続点」『進化経済学論集 第10集』2006年3月。
- 水口[2007a]「文化環境、個体群、そして認知過程—徒弟の覚書」『進化経済学論集 第11集』2007年3月。
- 水口[2007b]「コーポレーションと組織生態学」『証券経済学会年報』forthcoming.